

函館・高橋病院、時任町へ移転 24年秋、リハビリ部門拡充

10/26 19:22



2024年に時任町に移転する元町の高橋病院

函館市の西部地区で最も病床が多い高橋病院（元町、119床）が2024年秋、時任町に新築移転する。建物の老朽化などが理由で、リハビリテーション部門を拡充する。

同病院は社会医療法人高橋病院が運営。新病院の予定地は、時任町のJR北海道の社宅があった土地5400平方メートルで、建物は鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積約9200平方メートル。23年春に着工予定だ。

内科やリハビリテーション科などの9診療科は現在と変わらない。一般病棟を59床から39床に減らし、回復期リハビリテーション病棟を60床から80床に増やす。

現在の病院は6階建て、延べ床面積7117平方メートル。一部が老朽化し、外来患者らから「西部地区は坂が多くて通院に不便」との声もあったという。

総事業費は未定で、移転後の現在の病院の活用方法は今後検討する。同法人の担当者は「10人ほどスタッフを増員し、回復期医療にさらに力を入れたい」と話す。（石川実和）